

Title	都市政策の最前線を探る：現代都市のまちづくりを考える実施結果 アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：聖学院ポリシーカレッジ総括シンポジウム 公開パネルディスカッション）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-5：28-30
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2363
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

聖学院ポリシーカレッジ総括シンポジウム
 公開パネルディスカッション
 都市政策の最前線を探る
 —現代都市のまちづくりを考える—
 実施結果—アンケート集計結果の概要—



人口減少を前提としたまちづくりを考えるリレー講演会が行われた

日本は本格的な人口減社会に入った。右肩上がりを前提としたあり方を根本から見直す時が来た。都市政策は量的な拡大ではなく、コンパクトな、質の高いまちづくりに大きく舵を切る時である。人間にやさしい都市とは何か。市民の目線でまちのあり方を考える。

日時 2009年12月19日(土) 13:30～16:30
 場所 大宮ソニックシティ 4階 国際会議室

【プログラム】

開会挨拶・司会

山本俊明（聖学院大学総合研究所）

リレー講演

「アメリカ自治体のビジネスとしてのまちづくり」

中邨 章（明治大学教授）

「人口減時代とコンパクトシティの考え方」

平 修久（聖学院大学教授）

「都市自治体のまちづくり最前線—草加市の挑戦」

木下博信（草加市長）

パネルディスカッション

中邨 章（前掲）

平 修久（前掲）

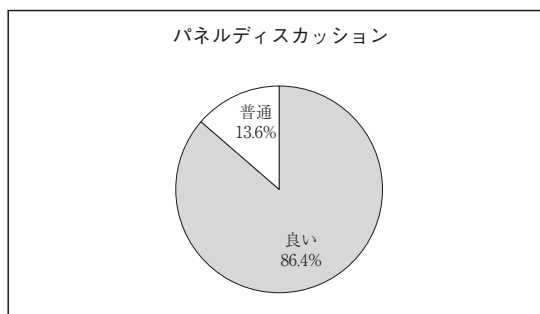
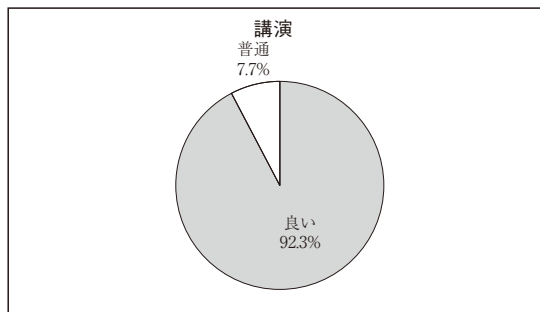
木下博信（前掲）

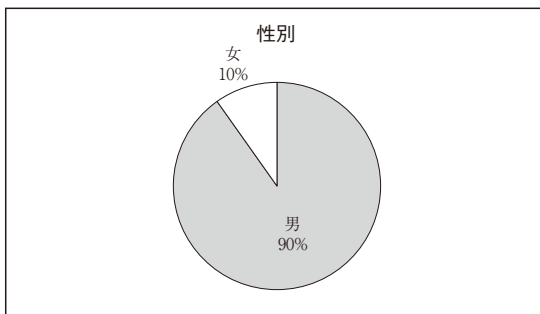
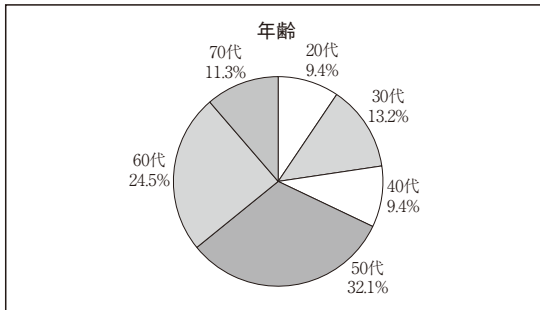
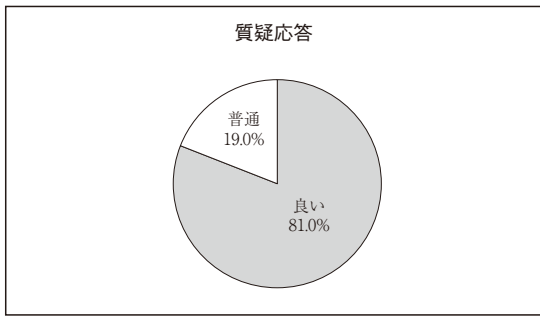
コーディネータ

佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授、中央大学大学院教授）

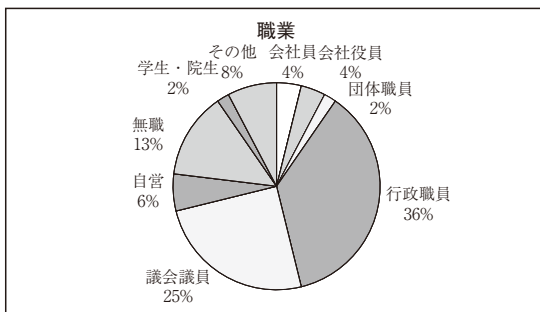
【結果の概要】

- ・参加者は93名。内アンケート回答者は53名。
- ・講演について「良い」という意見が92%と高い評価を得た。パネルディスカッション、質疑応答についても、「良い」が80%を超えた。
- ・自由意見として、「有意義なシンポジウムだった」「今後もこのような機会を」など。

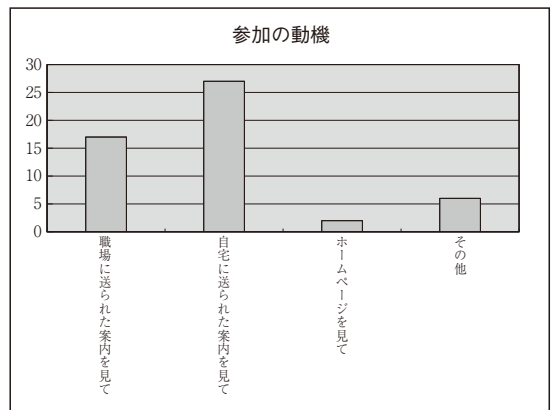




* 回答者の年齢は、50代が最も多く32%、次に60代25%となった。性別は、9割が男性だった。



* 職業別には、「行政職員」が36%、「議会議員」25%で6割以上を占めた。



* 参加の動機は、「自宅に送られた案内を見て」が最多、次に「職場に送られた案内を見て」。「その他」の内容として、「大学院の授業で」「市役所で知って」「会場の外の看板を見て」など。



講演者たちによるパネルディスカッション

自由意見

- ・特に駅周辺の町づくりでは住民の協力が必要だが、家の移転が伴うのでなかなか協力を得る事はできない。したがって昔ながらの狭い道路に家がはり付き、消防車も入ることが出来ない。面的整備がなかなか出来ない実態になっています。日本の町づくりは、まずはインフラづくりが主体、アメニティはこれから。
- ・全体的には有意義なシンポジウムだった。個別には中邨先生の話をもう少し詳しく伺いたかった。
- ・木下さんの市民に任せる、自分の利益より市民に利益をとる考えはすばらしい。
- ・パネルディスカッションの内容が表題と少し違っていった感がある。少子高齢化と生産人口が

減少していく中で自治体の都市経営の方向、市民への啓蒙や市民の理解を得る方策などを議論していただきたかった。

平先生には、コンパクトシティとは、実現方策と課題などもう少し深く話していただきたかった。

木下市長には「市民はどういう責務を果たすのか」をどう分りやすく市民の方々に理解していただく点を詳しく話していただきたかった。(たぶん市民との関係図がそうだと思うのだが) また、市民とは横の関係だよと理解していただく上での苦労話を聞きたかった。

- ・平先生の講演、初めてなので刺激をうけました。これを契機に勉強させていただきます。
- ・自治体の長の話しを聞くことが出来て、大変有意義でした。またこの様な機会があれば参加させていただきたいと思います。
- ・草加市長の話は興味深かった。まちづくり協議会を地域毎につくっているという件は住民自治の方向性として有益な示唆を与えるもの。市民主体のまちづくり。
- ・草加市の挑戦。大変参考になりました。具体的でした。
- ・草加市の取り組みが参考になりました。(協働について)
- ・草加市長の話について、とても勉強になりました。行政がどこに視点を置いて事業をすすめるのか、そこには市民が主体性をもつことがキープポイントであり、重要なことであると感じました。行政においては、トップ（市長）の考えで左右されることが多い。しかし、市民が主体、市民がつくる市ということが基本となれば、市民が左右されることがなくなると思いました。また、行政職員も意識改革の必要性を改めて痛感しました。
- ・草加市長の講演が実際に基づいた報告で内容が濃く、わかりやすかった。机上の空論でなく、8年の流れの中でできたもの。すごい。
- ・今年度テーマの都市政策については、多くのことが盛りこまれて、課題や対応策が見えてきたような気がします。
- ・お三方の講演、大変参考になるものでした。今

後もこのようなシンポジウムを開催してください。

- ・4人の先生方が各自の専門と立場から「都市政策」について述べてくれて非常におもしろかった。
- ・今後の市民活動に大いに参考になりました。
- ・自治体の政策や、地域振興の活力は国との対決の中から発生すると考える。都市づくりを進めるとき、どのような事にポイントをおいて政策することが大事なのかについて再度ご指導お願いします。本日のシンポジウムに参加させていただきまして心から感謝申し上げます。
- ・ご案内いただきありがとうございます。また折をみて参加し、勉強させていただきます。
- ・来年も期待しています！学ばせていただき、仕事にフィードバック出来るよう努力したいと思います。
- ・これからも新しい問題点、都市問題（居住関連の問題）などを研究し、継続して開催することを希望します。都市間競争、各自治体の動向、人口問題など、調査研究の発表について、道州制について、の諸問題についても知りたい。
- ・今後ともこの様な機会を持っていただくとありがたい限りです。次回開催するときは、今回よりいいものを開催して下さい。
- ・最先端の課題について引き続き参加したい。
- ・今後もより新しいテーマでの講演の企画を期待します。
- ・ありがとうございました。
- ・時間が短く残念。ポイントを絞ってほしい。
- ・時間が足りない。
- ・国際政治、国際連帯税に関するシンポジウムを期待します。